

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務 判明事故復旧		会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋																
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	小瀬 裕之																
作業名称	ショックプロテクター取替工(夜間作業)		作成年月日	令和3年9月10日																
使用機械 使用設備 (具体的な名称・クラスを記す)	クレーン付きトラック、トラック		現場責任者	白藤 サイン																
使用工具 機器 (大きなサイズ等は具体的な寸法を記す)	ボルト締め工具、吊り具、ワイヤー、ドリル、清掃道具		元請確認																	
保護具	ヘルメット、自発光チョッキ、安全靴、手袋、警笛		改正年月日																	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準)の区別を記す)	小型移動式クレーン運転(技)、玉掛け(技)、大型免許		作業順序 <table border="1"> <tr><td>1</td><td>準備作業</td></tr> <tr><td>2</td><td>積み込み</td></tr> <tr><td>3</td><td>運搬</td></tr> <tr><td>4</td><td>現地確認</td></tr> <tr><td>5</td><td>撤去</td></tr> <tr><td>6</td><td>設置</td></tr> <tr><td>7</td><td>後片付け</td></tr> <tr><td>8</td><td></td></tr> </table>		1	準備作業	2	積み込み	3	運搬	4	現地確認	5	撤去	6	設置	7	後片付け	8	
1	準備作業																			
2	積み込み																			
3	運搬																			
4	現地確認																			
5	撤去																			
6	設置																			
7	後片付け																			
8																				
作業人員 (当作業に関わる役割と人員を全て記す)	責任者1人、特殊運転手1人、作業員3人																			
作業手順	作業責任者(職長)																			
周知会 参加者	周知会実施日																			
サイン (記録)																				
	合計 5名																			

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可 能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○○	○×	○○	1:極めて小さい 関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい 関係者に対策の指示
	×	×○	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度 職長が確認
	×	××	××	××	△×、×△	4:かなり大きい 工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対する周知

作業項目 (誰が)	内容 主なステップ	留意事項 作業のポイント	危険性・有害性の洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミスマスロス	危険性・有害性の除去・低減のための実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業									
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	機械・道具の点検	日常点検により機械・道具の照明器具の動作の確認							
	ワイヤー点検	ワイヤーの点検を行い、作業員の点検色のテープを巻く。							
	埋設物の確認	図面や現地調査により埋設の有無を確認する。							
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ、脚絆、ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認・入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両箱がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、降着物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
積み込み									
	緩衝BOX等の材料を積み込む	ユニック付きトラックに積み込む	吊り荷がバランスを崩して落下し、作業員が下敷きになる。	△	×	△×	4		有資格者による作業と、積み込み際は吊り荷の下に入らないよう声掛けを行う。
	荷締めを行う	トラックシートやロープを使用し荷締めを行う。	荷締めを行う時に、シートのゴムが切れ、反動で転倒する。	△	△	△△	3		荷締めを行う前にゴムの劣化がないか確認・交換を行う。
運搬									
	設置箇所へ運搬する	ユニック付きトラックで資材を運搬する。	カーブで急ハンドルを切り荷崩れを起こす。	△	×	△×	4		運転中は急ハンドルを切るような運転を行わなくてもいいように、周囲確認や速度の超過に気を付ける。
現地確認									
	作業箇所確認	現地KYにより危険のポイントを確認							
	周辺安全確認	構造物の位置を確認							
撤去									
	必要に応じてアンカーカバーを取り外す。	固定ボルトを外し、アンカーカバーを外す。	取り外したボルトに足をとられ、転倒する。	△	△	△△	3		ボルトは袋などに入れてまとめ、足元の整理を行う。
	ワイヤーロープを外す。	固定ボルトを外し、ワイヤーロープを撤去する。							
	緩衝BOXを撤去する。	上流側より順番に緩衝BOX・支持板を撤去する。	支持板を撤去する際に、バランスが崩れ支持板の下敷きになり負傷する。	△	×	△×	4		支持板は重いためユニックを使用し、玉掛け者・指揮者の指示のもと慎重に撤去を行う。
	破損したアンカーカバー取付ボルトを撤去する。	破損して取れなくなっているボルトネジを、工具を使用し取り除く。	電動ドリルを使用時に、動力に負け手をひねる。	△	△	△△	3		電動ドリルにハンドルをしっかりとり、必ず両手で持ち作業を行う。
	破損した細かい部品などを設置箇所から取り除く。	ホウキ・塵取りなどで細かい破損部品を取り除く。	清掃作業時に尖った部品で手を負傷する。	△	△	△△	3		手袋を着用し作業を行う。
設置									
	ワイヤーロープを設置する。	下流側から順番にワイヤーロープを通し、エンドブロック側のワイヤーをナットで仮止めする。							
	緩衝BOXを設置する。	緩衝BOX・支持板を順番に下流側より設置し、ワイヤーを通す。	ユニックで荷降ろしする際に、構造物が破く見えず接触する。	△	×	△×	4		作業箇所は照明器具にて明るくし、指揮者と合図を取り合いながら慎重に荷降ろしを行う。
	ワイヤーロープを固定する。	緩衝BOXすべてにワイヤーを通したら、ナットでワイヤーの両端を締め、ワイヤーを緊張する。	ワイヤーを緊張する際に、緩衝BOXに手を置いていたため、指を詰め負傷する。	△	×	△×	4		緊張前に自分の手を置く場所の確認と、他作業員に声掛けを行い、必要以上に緩衝BOXに近づけない。
	アンカーカバーを取り付ける。	アンカーカバーを取り付け、ボルト・ナットで固定する。							
後片付け									
	現場確認	ボルトの締め忘れや道具・材料の忘れ物がないか確認する。							
	車両の確認	車両の周囲・荷台・荷締めの確認を行う。	車両回送時に荷台から物が落下する。	△	×	△×	4		シートをする際は荷台すべてを覆い、隙間が開かないようしっかりと固定する。 工事車両箱を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事